

病院の実力「大腸がん」
医療機関別2019年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	全手術 (件)	うち腹腔鏡手術 (件)	ロボット支援手術 (直腸がん) (件)	内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD) (件)
千葉				
国立がん研究センター東	470	409	0	63
亀田総合	231	175	0	82
国保旭中央	211	77	1	69
千葉西総合	204	193	57	53
日本医大千葉北総	168	147	0	30
県がんセンター	166	106	6	59
国保君津中央	164	34	0	56◇
千葉労災	149	118	0	61
新東京	141	108	23	142
順天堂大浦安	140	137	0	20
船橋市立医療センター	121	81	0	3
松戸市立総合医療センター	114	93	0	26
千葉大	114	76	10	77
慈恵医大柏	112	80	8	2
新松戸中央総合	112	49	0	6
国・千葉医療センター	110	69	0	10
東邦大佐倉	107	88	0	3
成田赤十字	105	47	0	18
東京歯科大市川総合	96	80	0	35
聖隷佐倉市民	87	34	0	0
辻仲柏の葉	86	72	0	46
千葉市立海浜	85	58	0	8
東京女子医大八千代医療センター	82	51	1	39
千葉徳洲会	76	69	0	19
おおたかの森	55	25	0	7
国際医療福祉大市川	13	9	0	0
茨城				
土浦協同	192	109	0	52
県立中央	151	76	0	16
日立総合	144	111	4	39
友愛記念	133	25	0	3
水戸赤十字	127	73	0	0
国・水戸医療センター	124	39	0	—
筑波大	122	90	8	25
筑波メディカルセンター	68	18	0	48
筑波記念	52	35	0	11
牛久愛和総合	11	11	0	0
埼玉				
埼玉医大国際医療センター	536	464	0	175
独協医大埼玉医療センター	257	158	13	77
自治医大さいたま医療センター	219	182	1	140
県立がんセンター	216	179	12	17
埼玉医大総合医療センター	208	118	0	18
さいたま赤十字	194	137	0	124
上尾中央総合	178	146	16	25
深谷赤十字	137	31	0	11
川越胃腸	123	79	0	10
埼玉協同	105	42	0	11
さいたま市民医療センター	93	48	0	15
TMGあさか医療センター	87	65	0	26
春日部市立医療センター	72	63	0	7
新座志木中央総合	44	35	0	5
県立循環器・呼吸器病センター	17	0	0	0
埼玉医大	—	—	—	33

「セ」はセンター、「国・」は国立病院機構、「—」は無回答または不明。
◇は腺腫含む

全国の調査結果は19日の「安心の設計面」に掲載しました。

病院の実力

147

大腸がん

「ロボット手術」選択肢に

今回は大腸がんを取り上げる。一覧表には、腹腔鏡手術や内視鏡的粘膜下層剥離術

(ESD)などの治療実績を掲載した。大腸がんは、できる場所です。2017年の診断数は15万人を超え、がんの部位別で

最も多い。5年生存率は70%以上で、リンパ節や他の臓器への転移がなければ80%を超える。治療の中心は手術。実績が豊富な開腹手術に加え、腹部

に数か所の穴を開けてカメラや切除器具を入れる腹腔鏡手術が代表的だ。腹腔鏡手術は傷口が小さく、患者の体への負担が少ないため、普及が進んでいる。

治療法は、がんの転移の有無や患者の状態によって決める。いずれの場合も、病変を

初期は自覚症状があまりなく、早期発見には便潜血検査が有効だ。陽性なら内視鏡検査で確かめ、できるだけ早く治療を始めたい。

直腸がんでは、18年から手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使った手術も公的医療保険の対象になった。3次元の画像を見ながら、メスなどを遠隔操作する。細かな動きも可能だ。ロボット支援手術は今後さらに増えていくとみられる。

確実に取りきくことが重要だ。早期の場合、肛門から内視鏡を入れて行う治療も選択肢になる。ESDは、内視鏡の先に付けた電気メスで、がんを周囲の粘膜ごと切り取る。